

## ○浦安市概況

- ・漁業中心の小さな町であった。昭和46年漁業権を放棄
- ・海面埋め立てにより行政面積が4倍となる。16,98km<sup>2</sup>
- ・人口168,024人（平成30年1月末現在）
- ・昭和56年市制施行。鉄鋼の加工・物流基地と大型遊園地の誘致。ベッドタウンとして発展
- ・元町、中町（第1期埋め立て地区）、新町（第2期埋め立て地区）、それぞれに特徴あり
- ・東日本大震災（市域の86%が液状化）からの復旧、復興。平成28年市制施行35周年。新庁舎開庁

## ○図書館沿革 視察用資料：施設概要参照

- ・昭和58年：中央図書館開館 平成元年：書庫棟増築 平成18年：ラウンジ増築
- ・中央図書館開館後、公民館の建設に合わせて全市域に分館網を整備
- ・最新の分館は高洲分館。他館より広く席数も多い
- ・堀江分館は平成27年度大規模改修済み（公民館2階から1階へ移設）
- ・富岡分館は平成28年度大規模改修済み
- ・猫実分館は平成29年10月より大規模改修中。これ以降も開館順に大規模改修の予定
- ・中央図書館は平成29年度に大規模改修設計実施。30年度着工予定。単なる施設や設備の更新ではなく社会の変化、図書館利用の変化に対応した改修、機能の追加を行う

## ○図書館網（1中央館、7分館、3サービスポイント） 図書館配置図参照

- ・中央図書館
- ・分館（堀江分館、当代島分館、猫実分館、富岡分館、美浜分館、日の出分館、高洲分館）
- ・図書サービスコーナー（新浦安駅前複合施設マーレ内：シルバー人材センターに委託）
- ・行政サービスセンター（東京メトロ浦安駅前、JR舞浜駅前：市民課施設）
- ・すべての市民の徒歩圏に図書館関連施設を整備

## ○所蔵資料 視察用資料：所蔵資料参照

- ・蔵書冊数（平成28年度末） 1,176,123冊  
市民一人当たり蔵書冊数 7.11冊（全国平均 3.1冊）
- ・雑誌 中央図書館約400タイトル、全体で延べ674タイトル
- ・視聴覚資料 約26,000点

## ○職員

- ・正規職員33名（うち32名司書資格あり）  
図書館の正規職員として：資料・情報と市民を結びつける役割を担う  
行政職員として：自治体の方針・課題に沿った運営をおこない、図書館行政の重要性を説明できることが必要
- ・専門非常勤20名（司書資格あり）
- ・一般非常勤職員98名（司書資格不問・短時間勤務）

## ○予算・資料費（当初予算）

・平成29年度図書館費	344,286,000円	*職員給与費除く
・平成29年度資料購入費	96,449,000円	*東日本大震災後資料費の減額あり
図書購入費	76,941,000円	
逐次刊行物購入費	16,000,000円	
視聴覚資料購入費	3,352,000円	
電子資料等購入費	156,000円	*マイクロフィルム購入経費

## ○図書館統計（平成28年度） 平成28年度浦安市立図書館利用統計参照

・総貸出し冊数	1,992,908冊	
市民一人当たり貸出冊数	12.05冊	（全国平均 5.5冊）
・蔵書冊数	1,176,123冊	
市民一人当たり蔵書冊数	7.11冊	（全国平均 3.1冊）

## ○図書館サービス

\*市立図書館：一部に特化することのないすべての市民へのサービス

\*一般奉仕：（成人へのサービス、サービス全般）

- ・生活、趣味、学習、仕事など市民の生活のあらゆる場面で役に立つ図書館

\*児童奉仕

- ・読書の基礎の形成期：乳児からの途切れのないサービスにより本の楽しさを伝える  
カウンターやフロアでの対応、本の展示、本の紹介リスト

「えほんのじかん」「おはなし会」「科学で遊ぼう」など

- ・子どもに関わる大人へのサービス：子どもに本を手渡す役割をともに担ってもらう  
「ブックスタート絵本講座」「赤ちゃんと楽しむわらべ歌の会」「親子で楽しむ絵本講座」  
「絵本のおよみきかせ入門講座」「お父さんも一緒に絵本講座」など

- ・類縁機関サービス

保育園、幼稚園、認定こども園、小学校等へ出向いてのサービス（読みきかせ、ストーリーテリング、ブックトークなど）

学校司書との連携、団体貸出

\*レファレンスサービス・地域資料

- ・市民の様々な調べものや課題解決の援助
- ・紙資料とインターネット情報の併用
- ・データベース（新聞記事・企業情報など）
- ・行政支援：行政課題に関する資料・新聞雑誌記事情報の提供
- ・パスファインダー（調べ方の案内）の作成→地域課題に即したテーマ  
（市民大学、コミュニティカレッジ、創業支援セミナー等との連携）
- ・地域資料、行政資料の収集と提供
- ・「浦安震災アーカイブ」平成27年7月より公開。コンテンツの充実と利活用を図る

<http://urayasu-sinsai-archive.city.urayasu.lg.jp>

\*ハンディキャップサービス

- ・図書館への来館や活字資料の利用に障がいがある市民へのサービス
- ・宅配、対面朗読
- ・録音資料等の製作（製作協力者の要請）
- ・点字図書館等との連携
- ・病院サービス(東京ベイ・浦安市川医療センター、順天堂大学附属病院)
- ・障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法)平成28年4月施行

○蔵書構成検討委員会

- ・「人文科学」「社会科学」「自然科学」「語学・文学」「児童」の5グループで構成
- ・全職員をいずれかのグループに配置。係業務と縦横の関係
- ・選書、棚の管理、移管、除架、除籍までの資料管理を一貫して行う
- ・集会事業（図書館講演会、図書館カルチャー、子どもの本の講座）や展示と資料の連携
- ・資料に関する専門知識の蓄積と司書からの情報発信

○課題

- \*中高校生、勤労者層、父親層、祖父母、リタイア・シニア層などへのサービス強化が課題
  - ・職業体験、インターンシップ、図書館クラブ、図書館サポーター
  - ・お父さんも一緒に絵本講座
  - ・孫と一緒に図書館へキャンペーン
  - ・シニア層向けの資料の充実 など

\*正規職員の継続的な確保

\*図書館利用の変化とこれからの浦安市立図書館

- ・情報通信技術の進展→図書館機能と利用形態の多様化高度化
- ・在館時間の長時間化→閲覧席充実への要望、ラウンジの設置
- ・個人の学習→学習の成果の共有、地域への還元
- ・利便性の向上⇔本がある場所、専門職がいる場所としての図書館の魅力の強化
- ・変わらないもの(本質的な資料・情報提供)と変わるもの（社会の変化への対応）のみきわめ
- ・中央図書館大規模改修で目指すもの

もっと使いたくなる図書館へ

居心地の良い図書館

出会いのある図書館

可能性を開く図書館